

事後評価調書(案)

I 事業概要																											
事業名	農業農村整備事業(たん水防除事業)																										
地区名	あつみだいよん 渥美第四地区																										
事業箇所	いらごちょう 田原市伊良湖町																										
事業のあらまし	<p>本地区は、愛知県の渥美半島の先端に位置し、西に三河湾を臨む標高0.1~4.0mの畑作地帯で流域面積は995.7haである。地区内の排水は、通常時は自然排水であるが、洪水時には2か所の排水機場(渥美第四排水機場、渥美第六排水機場)により、三河湾へ強制排水している。既設排水機場の老朽化等に伴う排水能力の低下により、地区の排水状況は著しく悪化し、豪雨時にはしばしば農地や農業用施設、公共施設等に湛水被害が生じていた。</p> <p>このため、機能低下が著しい渥美第四排水機場と渥美第六排水機場及び老朽化した豊島排水路を更新整備することにより湛水被害を防止し、農業経営の安定と県民生活の安全・安心を図ることを目的として、2007年度からたん水防除事業渥美第四地区を実施し、2016年度に完了した。</p>																										
事業目標	<p>【達成(主要)目標】</p> <p>機能低下した既設排水機場を更新整備し、農地、農業用施設及び公共施設等の湛水被害を防止する。 (計画基準雨量 322.3mm/3日、1/20年確率雨量)</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>																										
事業費	事業費		内訳																								
	19.6億円		■工事費 18.4億円、■用補費 0.2億円、■その他 1.0億円																								
事業期間	採択年度	2007年度	着工年度	2008年度	完成年度	2016年度																					
事業内容	排水機場 2か所 排水路 L=1.2km																										
II 評価																											
①事業目標の達成状況	1) 主要目標の達成状況	<p>【達成状況】</p> <p>事業完了年度からの5年間で、最大3日連続雨量は2017年10月21日~10月23日に314.0mm(最大1時間雨量38.5mm)を観測したが、農地や公共施設等の湛水被害は発生していない。</p> <p>降雨実績 (伊良湖観測所降雨データ)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>計画</th> <th>2016</th> <th>2017</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大3日連続降雨量</td> <td>322.3mm</td> <td>96.0mm</td> <td>314.0mm</td> <td>133.5mm</td> <td>304.0mm</td> <td>198.5mm</td> </tr> <tr> <td>(最大1時間降雨量)</td> <td>(78.2mm)</td> <td>(22.0mm)</td> <td>(38.5mm)</td> <td>(32.5mm)</td> <td>(33.0mm)</td> <td>(8.0mm)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【達成状況に対する評価】</p> <p>最大3日連続雨量、最大1時間雨量共に計画基準雨量以下であるが事業完了以降、湛水被害は発生しておらず、本事業は地域の農業経営の安定と県民生活の安全・安心に寄与していると評価できる。</p>					区分	計画	2016	2017	2018	2019	2020	最大3日連続降雨量	322.3mm	96.0mm	314.0mm	133.5mm	304.0mm	198.5mm	(最大1時間降雨量)	(78.2mm)	(22.0mm)	(38.5mm)	(32.5mm)	(33.0mm)	(8.0mm)
	区分	計画	2016	2017	2018	2019	2020																				
最大3日連続降雨量	322.3mm	96.0mm	314.0mm	133.5mm	304.0mm	198.5mm																					
(最大1時間降雨量)	(78.2mm)	(22.0mm)	(38.5mm)	(32.5mm)	(33.0mm)	(8.0mm)																					
2) 副次目標の達成状況	<p>【達成状況】</p> <p>—</p> <p>【達成状況に対する評価】</p> <p>—</p>																										

②事業効果の発現状況

【費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化】

項 目		計 画	実 績 (2021)	備 考
事 業 期 間		2007~2015 (9 年 間)	2007~2016 (10 年 間)	
事 業 費 (億 円)	工 事 費	19. 6	18. 4	
	用 地 補 償 費	0. 2	0. 2	
	そ の 他	1. 1	1. 0	
	合 計	20. 9	19. 6	1. 3 億 円 減
効 果 の 算 定 要 因	流 域 面 積	995. 7ha	995. 7ha	増 減 な し
	農 地 面 積	553. 8ha	553. 8ha	増 減 な し
	宅 地 等 面 積	441. 9ha	441. 9ha	増 減 な し

【事業期間に対する評価】

計画より事業期間を1年延長したが、2013年から新設排水機場を稼働し、排水路工事を施工したため、湛水被害等は発生しておらず、期間延長による影響はなかった。

【事業費に対する評価】

工事費の積算精査及び工事の入札結果（請負差額）等により、事業費が1.3億円減で事業完了できた。

【効果の算定要因に対する評価】

計画時と比較して、流域面積、農地面積ともに増減はない。
排水機場の整備により湛水被害が防止されており、効果については、計画どおり発現していると評価できる。

③事業実施による環境の変化

施工にあたり、低振動、低騒音の作業機械を使用し、既設の排水路、遊水池に生息する魚類が、工事施工箇所に入らないように注意して施工したことにより、自然環境や生活環境へのマイナスの影響はほとんどない。

III 対応方針（案）

今後の事後評価の必要性	主要目標が計画通り達成されているため、今後の事後評価は不要である。
改善措置の必要性	主要目標が計画通り達成されているため、改善措置は不要である。
同種事業に反映すべき事項	工事中においても湛水被害防止に配慮するため、既設機場の排水機能を活かし、予備排水により降雨に備えるなどの対応が必要であった。今後同種事業においても、排水機場管理者と調整し、こうした対応を行うことが重要である。

IV 事業評価監視委員会の意見

V 対応方針